

大分教育事務所訪問②-6（計79）

由布市立石城小学校に学ぶ

学校経営から学ぶ

学校の教育目標「つながりあって 成長する あたたかい「石城っ子」の育成」を達成するために、学校として育成を目指す（教科横断的な）資質・能力を「粘り強さと主体性の育成」と絞り込み、その目標を意識されながら実践しています。

教職員の皆さんは重点的取組や取組指標に向けて真摯に取り組まれていることがわかりました。今後は、「粘り強さと主体性」【目標】を育成するには、子ども自身がどのような資質・能力を持つべきか【課題＝目標と現状の差を埋めるために必要な力】を、教職員だけでなく保護者や地域の方と熟議を通してより明確にし、共通理解が図ってみたいはいかがでしょうか。そのことで、上位目標に関する理解が深まるだけでなく、それぞれ当事者意識が高まり、それぞれの個性や特技を生かしながら意欲的に取り組まれることと思います。【手段＝任せる】

その際は、以下の資料も参考にされてみてはいかがでしょうか。 ※参考資料「小学校学習指導要領解説 総則編 pp.47-53 (2)教科等横断的な視点に立った資質・能力 ①学習の基盤となる資質・能力」

また、大人が決めるだけでなく、子ども達にも「私たちはどんな力をつけるべきか」を話し合うことで、子ども自身が自分の課題として行動することになると思います。



NO.359 2021年10月 由布市立石城小学校

粘り強さ

途中であきらめないのは、教室のみんなが頑張っているから。あなたの頑張りも、周りの人を応援している。



NO.361 2021年10月 由布市立石城小学校

やってみる

知っていることも、実際にやってみると楽しい。そして、いろいろな発見がある。



NO.362 2021年10月 由布市立石城小学校

予想する

予想しているから集中できる。そして、新たな課題も見つかる。また、やる気になる。

授業から学ぶ

授業を参観した学級では熱心に学びに向かう姿がありました。特に1年生の算数では問題を見るとすぐに「足すのだろう」「増えるからね」「式も書けるよ」等のつぶやきが教室に広がり、課題に対する見通しを子どもたちが示していました。正に主体性の現れですね。このように、教師の立ち位置もファシリテーターとして、子どもから出されるつぶやきを拾いながら、子どもと共に見通しをもち、さらに子どもどうして学び合い、子どものたちでまとめるような授業を検討されてはいかがでしょうか。

さらに、「振り返り」で、子ども達がどのような事を書くのか、どんな姿になったら良いのか等、教師が願う具体的なゴールの姿を「子どもを主語」とすることで、「ねらい」との連動や評価規準がより明確になります。そのような、日常的な実践を行うことで授業力がより向上すると思われました。



NO.360 2021年10月 由布市立石城小学校

主体性

周りに流されずに、自分らしさを出してみよう。楽しいことは、待っていても来ない。私がつくる。